様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成　22　年　5　月　9　日現在

研究種目：基盤研究(C)
研究期間：2007～2009
課題番号：１９５２０３１０
研究課題名（和文）ヨーロッパ文学における冥界場面の解明を基礎とする比較作品論および比較文化論的研究

研究課題名（英文）A Comparative Literary and Comparative Cultural Study based on the Elucidation of the Depictions of the Nether World in European Literature

研究代表者
佐野　好則（SANO YOSHINORI）
国際基督教大学・教養学部・上級准教授
研究者番号：50295458

研究成果の概要（和文）：本研究においてはヨーロッパ文学中の冥界場面描写の観点から重要な『オデュッセイア』、『アエネーイス』、『神曲』、『失楽園』を主に取り上げ、各作品の冥界場面を比較作品論的観点から先行作品のモティーフの受容と改変に特に注目して分析した。さらに比較文化論的観点から、それぞれの作品の冥界場面描写の特徴を、文化的、思想的、宗教的、政治的背景との結びつきに注目して検討した。

研究成果の概要(英文)：In this research project, the *Odyssey*, the *Aeneid*, the *Divine Comedy*, and the *Paradise Lost*, which are important literary works in respect of their depiction of the Underworld scenes, were analyzed in comparison to each other, with special attention to the use of motifs of previous works and their adaptation. Moreover, from the perspective of comparative culture, special characteristics of the Underworld scenes of these works were examined in relation to the cultural, philosophical, religious, and political background of each work.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
２００７年度	600,000	180,000	780,000
２００８年度	500,000	150,000	650,000
２００９年度	400,000	120,000	520,000
年度			
年度			
総　計	1,500,000	450,000	1,950,000

研究分野：西洋古典学・比較文学
科研費の分科・細目：文学、各国文学・文学論
キーワード：西洋古典、ギリシャ文学、ラテン文学、イタリア文学、英文学、文学論、思想史

１．研究開始当初の背景
(1)時代を異にする複数の作品を取り上げて、同一のモティーフの扱われ方の変遷を辿ることは、比較文学論研究において極めて有効な方法であるということが、本研究の根本的な動機である。その際の研究対象となる同一

のモティーフとして冥界場面の描写が選定された理由は、ギリシャ文学の『オデュッセイア』、ラテン文学の『アエネーイス』、イタリア文学の『神曲』、英文学の『失楽園』という冥界場面描写を含む代表的作品があり、しかもこれらの4作品がそれぞれ先行する作品における冥界場面からの様々な要素を継承しつつ、顕著な改変を加えていることであった。

(2)これらの 4 作品を比較文学的観点から取り上げる先行研究は従来ある程度存在したが、4 つの作品を同等に扱い、冥界場面を構成する各要素の変遷を詳細に分析する研究に関しては十分に検討されているとは言い難く、新たな検討を重ねる余地があった。

(3)4作品の冥界場面の特徴には、それぞれの作品の背景となる文化的、思想的、宗教的、政治的な背景が反映されている。従来の比較文学論的研究においては、このような様々な背景を考慮に入れた、総合的比較文化論的な観点からの検討は十分になされているとはいえない。

２．研究の目的

(1)『オデュッセイア』、『アエネーイス』、『神曲』、『失楽園』における冥界場面の比較作品論的検討においては、先行する作品の要素に対していかなる創意工夫が加えられたかを明確にし、各作品の特徴を把握することが当面の目標である。このように4作品を比較することの利点は、一つの作品のみを考察する際には見いだし難い特徴を把握することが可能になることである。修辞技法や場面構成等形式的な側面に加えて、各作品の文化的・思想的・宗教的・政治的背景に着目し、各作品の根本にある倫理観、世界観の差異の分析にまで至ることは、より広い観点における本研究の目的である。

(2)最も古い『オデュッセイア』については、『イーリアス』、『神統記』、『仕事と日々』における冥界および人間の死後の描写と比較して、『オデュッセイア』における冥界場面の特徴を把握することが具体的な目標である。さらに、『オデュッセイア』の全体的な倫理的枠組み、世界観、宗教観との関連において、冥界場面の特徴を把握することは従来の研究においては十分になされてはおらず、本研究において十分になされているとは言えず、独自の解決を試みることが望まれる。

(3)『アエネーイス』に関しては、『オデュッセイア』における冥界場面との顕著な類似点ばかりではなく、注目すべき相違点も見いだされる。特に将来生まれ来ることとなるローマ人たちの魂が描写される場面は、『オデュッセイア』には対応する要素のない独創的な部分である。この部分におけるローマ的な政治的メッセージを読み取ることが具体的な目的である。

(4)『神曲』については、『アエネーイス』の作者ウェルギリウスが、地獄篇の導き手として設定されていることに顕著なように、『アエネーイス』の冥界場面からの影響が極めて濃厚である。他方『アエネーイス』にはなかった中世カトリックの宗教的・思想的要素、さらにはフィレンツェ内部およびフィレンツェとローマ教皇庁の間の政治的関係が『神曲』の冥界場面の随所に織り込まれている。これらの『アエネーイス』にはなかった要素を織り込む際の創意工夫を解明することが重要な目的である。

(5)『失楽園』については、作者ミルトンが、先行する『オデュッセイア』、『アエネーイス』、『神曲』を詳細に検討した上で、サタンを中心とする堕天使たちが落とされる暗黒の世界の描写の各所に、先行する作品の冥界場面の要素が用いられている。原罪を全体的な主題とする『失楽園』の宗教的・思想的枠組みの中に、それら先行する作品の冥界場面の要素を組み込む際の創意工夫を解明することが目的となる。

３．研究の方法

(1)以上の目的を達成するためには、4つの作品の原典の詳細な検討が基盤となる。そのため、それぞれの作品についての各種校訂版、注釈書、および文献学的先行研究を調査把握することが必要となった。この調査の結果、当該研究機関に所蔵されていない必須文献については、科学研究費補助金を用いて購入した。また、購入不可能な文献については、国内および国外の図書館に所蔵されている文献を複写・収集した。このため2007年度および2008年度に、オックスフォード大学ボドレイアン図書館での文献調査・収集のための研究旅行を、科学研究費を用いて実行した。

　またこのオックスフォード大学への研究旅行の際には、連携研究者であるDr. Malcolm Daviesと、当研究の方向性および、関連資料について意見交換を行った。

(2)4つの作品の冥界場面の文化的背景を解明するためには、文化的・歴史的背景を作品が成立した場所における現地調査・資料収集が必要となる。そのため、『神曲』の歴史的背景であるフィレンツェへの研究旅行を

2007 年度に、『アエネーイス』および『神曲』の歴史的背景であるバチカン・ローマへの研究旅行を 2009 年度に、科学研究費補助金を用いて実行した。

(3)以上の文献資料および現地調査で得られた歴史的・文化的背景についての資料を分析した。この資料分析のために 2008 年度にノート PC および関連機器を科学研究費補助金を用いて購入した。このノート PC および関連機器は、研究成果公表のための口頭発表の原稿作成、および論文等出版物による研究成果公表のための準備にも継続的に用いられた。

４．研究成果

(1)研究代表者佐野好則は、2007 年度に冊子『西洋文明の源流としての西洋古典と聖書―特に叙事詩の伝統をめぐって―』を出版した。これは、『イーリアス』、『オデュッセイア』に発し、『アエネーイス』を経て、『失楽園』へつながる叙事詩の伝統における、ギリシア・ローマ的な要素とキリスト教的な要素の関わりについて、特にその根本にある人間観の変遷に注目して論じたものである。

(2)2007 年度に研究会「西洋古典とダンテ『神曲』における冥界場面をめぐって」を開催した。その際に研究代表者佐野好則による研究発表「『オデュッセイア』第 11 巻の冥界場面の構成について」がなされた。この発表においては、『オデュッセイア』の冥界場面の構成上の特徴を、先行する古代ギリシャの叙事詩文学にあらわれた冥界描写との比較の視点から解明した。

この研究会の際には、科学研究補助金を用いて招待講師日向太郎氏を招聘し、研究発表「ダンテ『神曲』地獄篇第 7 歌における運命の女神について」も合わせて行われた。この研究会に出席した諸研究者と、『オデュッセイア』と『神曲』における冥界場面について、多角的な視点から検討する質疑応答がなされた。

(3)2008 年度には、研究会「西洋古典とダンテにおける冥界場面」を開催し、研究代表者佐野好則による研究発表「『オデュッセイア』と『アエネーイス』の冥界描写をめぐる若干の考察」がなされた。この発表においては、『オデュッセイア』と『アエネーイス』における冥界場面描写の相違に注目し、それぞれの作品の冥界場面の背景にある作品構成上、および思想的・宗教的背景について検討した。

またこの研究会には、科学研究費補助金を用いて、招待講師日向太郎氏を招聘し、研究発表「神話と歴史の交錯――ダンテ『神曲』地獄篇第 30 歌の場合」が行われた。この発表においては、ダンテ『神曲』30 歌のギリシア・ローマ神話的背景とイタリア中世の歴史的背景との関わりが論じられた。この研究会に参加した諸研究者と、『オデュッセイア』から『失楽園』にいたる冥界描写に関して、神話と歴史の関係を含む総合的な観点からの質疑応答がなされた。

(4)研究代表者佐野好則は 2009 年度にギリシャ哲学セミナーにおいて、研究発表「アリストテレス『詩学』における叙事詩論について」を行った。この研究発表においては、『イーリアス』、『オデュッセイア』がアリストテレス『詩学』においていかなる評価を与えられているかを総合的に検討した。この研究発表は、『オデュッセイア』の文献学的な検討に関連する。この研究発表の内容は、ギリシャ哲学セミナー論集（電子テキスト版）に収録された。

(5)研究代表者佐野好則は、2009 年度にフィロロギカ研究会において研究発表「冥界のヘーラクレース　―ミーノースーヘーラクレース場面に関する一考察―」を行った。これは『オデュッセイア』における冥界描写の最後に部分に注目し、その背景にある死者予言的要素と冥界下り的要素の結合に着目しつつ、ヘーラクレース場面における詩人の創意工夫を明らかにするものである。この研究発表の内容は、大芝・小池編『西洋古典学の明日へ　―逸身喜一郎教授退職記念論文集』(知泉書館)に収録された。

(6) 2007 年度および 2008 年度の研究会での研究発表を収録した報告書の編集作業中を現在行っており、この報告書を関係者に送付する準備を進めている。さらに、本研究の最終的成果として、単行本『冥界の比較文学』(仮題)の出版の準備作業を進めている。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 2 件）

①佐野好則、アリストテレス『詩学』における叙事詩論について、ギリシャ哲学セミナー論集(電子テキスト版)、査読無、7 巻、2010、pp. 1-16

②佐野好則、冥界のヘーラクレース　―ミーノースーヘーラクレース場面に関する一考察―、大芝・小池編『西洋古典学の明日へ　―逸身喜一郎教授退職記念論文集』知泉書館、査読無、2010、pp. 31-50

〔学会発表〕（計 6 件）

①佐野好則、冥界のヘーラクレース　―ミーノースーヘーラクレース場面に関する一考察―、フィロロギカ研究会、於東京大学、2009 年 10 月 17 日

②佐野好則、アリストテレス『詩学』における叙事詩論について、ギリシャ哲学セミナー、於京都大学、2009 年 9 月 12 日

③日向太郎、神話と歴史の交錯――ダンテ『神曲』地獄篇第 30 歌の場合」、研究会「西洋古典とダンテにおける冥界場面、於国際基督教大学、2009 年 3 月 6 日

④佐野好則、『オデュッセイア』と『アエネーイス』の冥界描写をめぐる若干の考察、研究会「西洋古典とダンテにおける冥界場面」、於国際基督教大学、2009 年 3 月 6 日

⑤日向太郎、ダンテ『神曲』地獄篇第 7 歌における運命の女神について、研究会「西洋古典とダンテ『神曲』における冥界場面をめぐって」、於国際基督教大学、2008 年 2 月 16 日

⑥佐野好則、『オデュッセイア』第 11 巻の冥界場面の構成について、研究会「西洋古典とダンテ『神曲』における冥界場面をめぐって」、於国際基督教大学、2008 年 2 月 16 日

〔図書〕（計 1 件）
①佐野好則、西洋文明の源流としての西洋古典と聖書　―特に叙事詩の伝統をめぐって―、国際基督教大学宗務部発行、2008 年、14pp.

６．研究組織
(1)研究代表者
佐野　好則（SANO YOSHINORI）
国際基督教大学・教養学部・上級准教授
研究者番号：50295458

(2)研究分担者　なし

(3)連携研究者　なし

(4)研究協力者
DAVIES, MALCOLM
オックスフォード大学・人文学部・講師